

# エクステンションプログラムの学び

---

卒業生にインタビューしてみました！

当初漠然と掲げていた研究テーマは「高等学校の現場で特別支援教育を推進していくために必要な専門性」でした。当初はこのテーマを深めていくために「何」を「どのように」すればいいのかわからないままでしたが、これまで見てきた生徒達の「英語学習上の認知特性によるつまづき」について支援する方法を知りたいと思っていました。

私が主に参加していたプログラムでは、参加学生が、それぞれのテーマに沿って文献紹介や話題提供を順に行い、学生同士で議論し、担当教員から助言を得るような形式で進んでいきました。他学生の現場経験や興味関心に触れる中で、自己課題の中から「通常の学級での支援」「英語学習」「学習障害」「認知特性」「学びのユニバーサルデザイン」などのキーワードが浮かび上がってきました。しかし、最新の知見や研究論文を理解するための基礎知識に欠けていると感じ、学びのための「基礎体力」をつけようと考え、文献や書籍を読み込んだり、学会や研究会に参加することで、専門的な知識を得たり、最新の知見に触れることを心がけるようにしました。

また、大学の発達支援室での学部生による療育の様子を見学したり、保護者のお話を伺う機会も頂きました。学生の学習支援の様々な工夫と、保護者の療育（支援）や学校への期待等、現実感を伴った学びの機会になりました。グループの枠を超えた学びとしては、市内中学校研究授業の参加や、高等学校の通級授業見学の機会も提供頂きました。中でも、岡山市内中学校における研究授業では、「学びこぼしを作らない」という理念のもと、丁寧かつ細やかに子どもの見取りが行われる様は、かつて支援学校勤務時代に肢体不自由生徒達の動作の獲得を見取ろうとしていた記憶を彷彿とさせるものでした。通常の学校の教科学習の場においても、療育の視点が生かされる、しかも対象者は一部の生徒だけではなく、クラス全員の学びの保障を重視するという理念に強く惹かれました。こうして、「授業研究」という観点が加わり、最終的に「英語授業におけるユニバーサルデザイン授業の提案」というタイトルで、先生の助言や指導を仰ぎつつ、自己課題を深めることができました。

1年間のエクステンションプログラムでの学びの軌跡を振り返るとすれば、「全貌を概観することで現場に必要な視点が何かを知る」という作業を行っていたように思います。一つのテーマを深く掘り下げることではできなかったかもしれませんが、特別支援教育という広い世界の中で、自分が置かれた立場で何をすべきか、を考えるための足場づくりを行った、それが私のエクステンションプログラムでの学びであった、と考えます。

エクステンションプログラムでは、一年間、年齢も経験も学校種も全く違う仲間と特別支援教育の様々な分野について意見を交わしながら、自分の考えを深めていくことができました。例えば、文献講読の時間では、ダウン症の生徒への摂食指導、ディスレクシアの児童への効果的な指導方法、英語LD、特別支援教育におけるICT教育の可能性等について議論する時間がありました。小学校通常学級の経験しかない私にとって、勤務校では出会うことのない話題に触れ、仲間の経験やその経験から生まれた仲間の考えを聞くことができる機会となり、とても貴重な時間となりました。また、自分が主に参加していたプログラムだけでなく、他の先生のプログラムにも自由に参加でき、岡山県内の公立小中学校での協同学習の研究授業を参観したり、特別支援学校での授業を見学したりすることができました。大学内に限らず、様々な場においても自分の興味・関心に応じた幅広い学びがありました。

近年、小学校の通常学級においては、行動上、あるいは学習上に課題を持つ児童が複数在籍するようになってきています。学級経営や授業を進める中で、児童の困り感に気づきながらも、どのようなことが原因となつてつまずいているのか、どのような支援が効果的であるのか、通常学級で誰もが学びやすい環境、授業とは何か、教師として多くの引き出しを増やしていきたいと考え、岡山大学特別専攻科での長期研修に参加しました。そのような課題意識を持った私にとって、講義の中で学んだ応用行動分析の理論はとても印象的で、この理論をもとに、児童の問題行動への指導・支援と学級集団作りの効果について研究をしたいと思うようになりました。そして年度後期には、これまでの学びを活かした実践に取り組むことができました。

エクステンションプログラムでは、講義で学んだことを自分なりに考えを深める時間と環境が提供されます。自分の意見や考えを仲間や先生と議論することを通して、自己課題の焦点化や深化が促され、新たな学び、気づきが生まれ、新たな視点を持てることにつながりました。エクステンションプログラムを通して、より自己課題に迫ることができたと思っています。